

外来語について

海を渡ってきた言葉

年 組 氏名

◇「外来語」はいくつくらいあるか？

現在出版されている大型の外来語辞典を例にとると、収録されている語の数は三二、〇〇〇で、その中から固有名詞や略語などを除いて考えると、収められている一般的な外来語はおよそ三〇、〇〇〇語程度になります。また、定評のある小型の外来語辞典には、約二〇、〇〇〇語ほどの一般的な外来語が収録されています。さらに、平成二（一九九〇）年に新しく出版された外来語辞典にも、人名や地名などを除いて約二〇、〇〇〇語が収録されていますから、一般に認められている外来語は、ひとまず二〇、〇〇〇から三〇、〇〇〇語程度だと考えてよさそうです。

次に、実際にどれくらいの割合で外来語が使われているのかをみてみることにします。

昭和三一（一九五六）年の調査によれば、九〇種類の雑誌に使われていた外来語の数は、全体の語の約一割に近かったということですし、昭和四一（一九六六）年に行われた、新聞に使用された外来語に関する調査では、およそ一パーセントが外来語であったという結果が出ていたということです。

話し言葉の場合についても、昭和五五（一九八〇）年に報告された、ある人々の四一時間分の会話を分析した調査によれば、使用された外来語の数は全体の約一〇パーセントであったということがわかっています。全体では五、三四一語が使われているということですから、用いられた外来語はおよそ五三〇語程度と考えられます。こうした資料をもとに考えると、書き言葉の場合も、話し言葉の場合も、使用する語のおよそ一〇パーセントが外来語だといえそうです。しかし、時代の移り変わりのなかで、外来語が使われる割合はどんどん高くなっているような印象を受けるのは事実で、今後ますます日本語の中に外来語が重要な位置をしめていくのはまちがいません。

では、どのような国から渡ってきた外来語が多いのでしょうか。

昭和五五（一九八〇）年ごろの調査によれば、ある国語辞典の中の外来語（約三、四〇〇語）のうちでもっとも多かったのが、英語から取り入れられたもので、全体のおよそ八〇％をしめていたそうです。以下、ドイツ語とフランス語がそれぞれ五、六％、オランダ語が二％、イタリア語とポルトガル語が一、一・五％程度だということです。

◇外来語の身元を調べよう

○「駅の売店」「キオスク」 ペルシャ語の「宮殿」を意味する言葉が「あずまや」の意味でトルコ語に取り入れられて、広くヨーロッパに広まり、日本には英語「kiosk」を経て伝わってきた。

○「鍋料理に欠かせない」「ボン酢」 オランダ語から入ってきた「ポンス」がなまって「ポンス」となっていて一般化したものといわれる。ガス、コップ、ランドセルなどもオランダ語からの輸入品。

○「天婦羅」「釦」「煙草」は何と読む 「テンプラ」「ボタン」「タバコ」と読む。ポルトガル語から入ってきた言葉だが漢字を当てて使われてきた。

○「お店の」「暖簾」 中国語から入ってきた言葉。中国語では、同じ字を書いて「ノアンリエン」と読む。

◇「外来語」はいつごろから日本に渡ってきたか？

「外来語」とは、ふつう室町時代以降に外国語から日本語の中に入ってきた言葉のことをさしていると考えられています。外国の文化を取り入れるのといっしょに、その国の言葉が日本語の中に取り入れられてきたのでした。室町時代から江戸時代の初めのころは、ポルトガルやスペインからいろいろなものもたらされました。キリスト教の宣教師たちが伝えた言葉が多いのもこのころの特徴です。

「ポルトガル語から」

オルガン	カルタ	サボテン	バスケット
チョッキ	パン	クリシタン	クリスト

「スペイン語から」

ボレロ	カナリア	トマト	タンゴ
-----	------	-----	-----

（※オランダ語と区別のつかないものが多い）

次に伝わってきたのがオランダ語です。鎖国政策をとっていた江戸時代も、長崎の出島だけは海外への門戸として開かれていました、オランダとの貿易を通して、医学や化学、薬品関係の言葉が多く輸入されています。

「オランダ語から」

アルコール	インキ	ガラス	ゴム
ドロップ	ピストル	フォーク	コンパス

江戸時代の終わりになると日本ではフランス式の兵学を学んだ関係でフランス語が入ってきます。また、明治になると、ドイツやイタリアからもそれぞれの文化とともに多くの言葉が入ってきました。フランス語からは、芸術や服飾、料理関係の言葉、ドイツ語からは哲学や医学関係の言葉、イタリア語からは音楽関係の言葉が多く入ってきています。

「フランス語から」

アトリエ	クレヨン	デッサン	クロツケ
クーデター	アンケート	ポタージュ	アベック

「ドイツ語から」

アルバイト	イデオロギー	カプセル
ゼミナール	ノイローゼ	ヒステリー

「イタリア語から」

アルト	アレグロ	オペラ	デュエット
クラリネット	コンチェルト	スパゲティ	

英語からの影響については、日本の英語教育が大きな役割を果たしてきました。英語が広く一般に広まるのにもなつて、英語を使う国々からの文化が急速に取り入れられてきたことはいまでもありません。

これが「のれん」となった。

○「オートバイ」は日本製 英語では「motor-bike（モーターバイク）」「autocycle（オートサイクル）」で「オートバイ」とはいわない。「ガソリンスタンド」「ゴールイン」「テレビタレント」などもみんな日本製。

これらは、和製英語や和製洋語と呼ばれている言葉の仲間。

○「エアコン」は省略形 「エア・コンディショナー（air conditioner）」から一部分だけをとってできた不思議な外来語。マスコミも「マス・コミュニケーション」

からできた言葉だが、こちらの方は「口（くち）」とくっついて「口コミ」などとも使われているから、ますます不思議。